

北海道医歌人会詠草

ウクライナ侵攻

北広島 古屋雅三知

拒否権と言う名の矛盾 決議無く形骸化生む安保理事會
血に飢えた悪魔の耳には届かずや 世界に響く反戦の声
夜を繼いで西に向かひし民人に 心安まる時は有りしや
国境に辿り着いたる難民の憔悴し切った顔そして顔
国守り萬余の敵に対峙する勇士達にぞ榮あれかし

草青む

函館 水関 清

木琴の音色漏れくる冬校舎 揃って曲がる 氷柱の光
踏み出せる 土踏まずなき大き足 ふつくらとして お顔遠くに
銭湯の子等のあこがれ 瓶牛乳 手を腰にあて立ちながら飲む
啄木を乗せて夜汽車が走りたる 長万部・小樽間 塵線決まる
突き押しの 腕たぐりて土俵際 新聞脇の上手出し投げ

キーウ燃ゆ

士別 竹内 幹夫

我が父は国に残りて英雄の 軍に入ると泣く子のあはれ
丈夫の心も知らず生きたくば 国を捨てよと説く傷ましき
守るのは国のみならず民主主義 銃を取りたる母は答える
今日の夜を安寝のできる幸せよ あしたの朝を疑ひもせず
独り問ふ国に戻りて銃を取る 斯くほどの国吾にありやと

花候

滝川 村田 英俊

春風の撫でるごと吹き 猫柳 雪の隙間に手招きをする
叶わざる功労者へのハンティング エゾノギシギシ 引き抜くごとく
当直の浅き眠りの目覚めし朝 馬齒莧の黄の花ぞやさしき
石膏の〈考える犬〉中庭で見つめる先に 擬宝珠揺れおり
杖をつくトメさんが言う「花が見たいから生きていたい」 前向きなり

戦とは

江別 三宅 浩次

正義という相手もまた正義という戦は終わらず人間のさがか
人類の進化のもとに戦という発明がある悲しさがある
戦には勝ち負けという線引きが否応なしに引かされている
戦には負け組もまた勝ち組も多く悲劇が残されている
大戦の心の傷は今もなお年を老いたる我が身を責める

風信子

札幌 浜島 泉

風信子老女育む そよ風に揺らぐ花とやかたつて歌ひし
医療者を逆恨みして殺めしと 思ひ込みしは不可思議にして
帰宅して庭草花に水を撒く 暑熱を忍ぶ戦友として
離郷して七十年を数ふるに 夢に出て来る山容おなじ
土石流その映像の片隅に 逃るる人の走りゆく様

最後のニュース

釧路 児玉 昌彦

瀬戸際の外交劇が一瞬に実弾飛び交う戦乱の場に
蟻螂の斧とや言わむ難民の行く手をはばむ銃砲の列
かつて共に力合わせて戦いし昨日の友も今日の敵
「徹底抗戦」の言葉は空し過ぎし日の戦争の記憶重ねつつ聞く
争いを統べる国家が大規模な戦争止めぬ人間の性